

## 海運 <不定期専用船>

2020年10月27日

# 加古川の小学生向け「海の学習会」開催 旭海運、東海大・金子教授と神鋼物流が参加



旭海運（根元聡社長）は13日、兵庫県・加古川市の加古川市海洋文化センターで同市立浜の宮小学校5年生の児童115人（3クラス）を対象に「海の学習会」を開催した。発泡スチロールを使った蒸気船の製作実験を行い、同社からは竹之下登副社長ら3人と、神戸製鋼グループの神鋼物流の社員5人、金子仁東海大学海洋学部客員教授が講師として参加。E S G（環境・社会・ガバナンス）の取り組みの一環で、主要荷主の神戸製鋼の製鉄所がある加古川市を中心に社会貢献活動を展開している。

同社が加古川市で「海の学習会」を行うのは今年8月に続き2回目で、前回の学習会の好評を受けて浜の宮小学校からの要望で実施することになった。同小学校は毎年、4泊5日の自然学校を行っているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となったため、代替の日帰り学習として「海の学習会」を活用することにした。なお、学習を3回に分けて行うなど、新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえで実施した。

蒸気船の実験は金子教授が提案。発泡スチロールのシートを長さ約30cm・幅約10cmの船型に切り、コイル状に加工したアルミ管を差し込んで船を製作。アルミ管に水を入れ、防炎加工を施した船をロウソクで熱すると蒸気が噴出し、これを推進力にして前進する仕組み。児童たちはビニールプールで船が走る様子を見て歓声を上げた。

竹之下副社長は「当社がゆかりのある加古川市で、自分たちができる範囲で社会貢献活動を行う。活動を通して少しでも多くの子どもたちが海運に親しみを持ってくれたらと考えている」と話したうえで、「この活動に社員が参加し、子どもたちが喜ぶ顔を見ることで、E S Gへの取り組みへの重要性や価値を理解し、さらにいろいろなアイデアが出てくることを期待している」と述べた。今後も加古川市周辺の学校などの要望を聞きつつ、神戸製鋼グループとも協力して活動を継続する考えだ。



---

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。  
© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.  
No reproduction or republication without written permission.